

緩 和 ケ ア 便 り

日頃、緩和ケアチームにご支援・ご協力いただきまして、本当に有り難うございます。
2017年6月23日(金)～24日(土)、パシフィコ横浜で行われた「第22回日本緩和医療学会学術大会」に当院緩和ケアチームも参加してきました。その概要と様子をご報告致します。

日本緩和医療学会学術大会の概要

医療・福祉の各専門分野を包括した緩和医療を確立するため、1996年に日本緩和医療学会は創設されました。日本緩和医療学会は、がんやその他の治療困難な病気の全過程において、人々のQOLの向上を目指し、緩和医療を発展させるための学際的かつ学術的研究を促進し、その実践と教育を通して社会に貢献することを目的としています。



ポスター発表をしてきました！



武田 郁央 (外科科長・緩和ケア担当医)

演題名：①当院における「苦痛のスクリーニング」への取り組みと現状

②同時期に2人の末期がん患者を抱えた家族への緩和ケアチーム介入

27年度より取り組み、導入となった苦痛のスクリーニングの現状と課題について報告してきました。病棟への導入に関しては、がん患者さんに関わる全病棟に導入となり、緩和ケアチームの介入がスムーズとなりました。今後は、外来部門へ部署拡大し、早期からの緩和ケアを実践できる体制整備を目指したいと思っています。

遠藤 智子 (薬剤師)

演題名：情報共有ツールを用いた薬薬連携と緩和ケアチーム往診で介入できたPCAポンプ使用患者の一例

28年度は高用量のモルヒネ持続注射を使用している患者さんが自宅退院できる支援体制を整備しました。院外保険薬局との薬薬連携を充実させるための工夫や緩和ケアチームによる多職種往診ができる体制に至るまでの取り組みについて発表してきました。

奥山奈穂子 (緩和ケア認定看護師)

演題名：在宅療養を望む終末期がん患者3例に対し、緩和ケアチーム訪問診療を導入した試み

28年度、終末期がん患者さんの自宅へ帰りたい、自宅で過ごしたいを実現するために、緩和ケアチームが病院を出て、在宅訪問を行う体制を整備しました。昨年度は3例の患者さんを経験することとなり、実際にどのような関わりをしたのかを報告させていただきました。

第41回年次大会 in秋田！

2017年、年次大会の会場は、秋田です！

来年の予定ではありますが、全国で御活躍されている素晴らしい講師の方々に参加して下さることが決定しています。貴重な御講演を拝聴できる、大チャンスになると思います。

非会員の方であっても、参加費はかかりますが、医師以外の医療スタッフの初心者もベテランも、市民も対等に参加できる研究会です。

ホームページ：<http://www.jard41-akita.com/>



死の臨床研究会



検索

痛みや症状コントロール、ケアについてのご相談がありましたら、緩和ケアチームへご連絡ください。